

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日:平成20年1月28日

【評価実施概要】

事業所番号	2873400853		
法人名	有限会社ほおずき		
事業所名	グループホームCHIAKIほおずき姫路香寺		
所在地	(〒679-2143) 兵庫県姫路市香寺町中仁野268-1 電話 079-232-9430		
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区荻乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成19年12月7日	評価確定日	平成20年1月28日

【情報提供票より】 [平成19年11月1日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年2月1日		
ユニット数	2ユニット (利用定員…計18人)		
職員数	12人	(常勤12人) (非常勤0人)	/ 常勤換算12.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	地上2階建て建物の1、2階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000円	その他の経費(月額)	23,000円
敷金の有・無	有り (円) ・ 無し		
保証金の有・無 (入居一時金含む)	有り (300,000円) ・ 無し	(保証金有りの場合)保証金償却の有・無	有り ・ 無し
食材料費	朝食	150円	昼食 350円
	夕食	350円	おやつ 50円
	または、1日あたり		

(4) 利用者の概要 (平成19年11月1日 現在)

利用者人数	計18名	… (男性6名) (女性12名)
要介護1	2名	要介護2 9名
要介護3	6名	要介護4 1名
要介護5	0名	要支援2 0名
年齢	平均83歳	… (最低70歳) (最高94歳)

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山本内科医院	医療法人社団 ヨコテデンタルクリニック
---------	--------	---------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR播但線「香呂駅」を東へ徒歩10分程のところ。生活リハビリ(散歩)として、ホームから丁度良い距離に、スーパー、公園、ゲートボール場があり、日々の暮らしに取り入れられている。菜園では、農家出身の利用者が中心になって、季節野菜を育てていた。利用者にホームでの暮らしにおいて生きがいをもっていただくための工夫の1つとして、個々の介護計画に「利用者ご本人の得意な事」を、必ず取り入れるようにしている。実際に、評価訪問時にも、利用者が自分の役割や楽しみごとを持ち、他の利用者や職員と協働し、会話していた。ホーム全体に「大きな家族として暮らしている」様子が感じられた。利用者の不安解消のためのさりげない工夫(職員の顔を目に見える場所への休憩椅子の配置など)もなされている。◎添付の資料写真も参照

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) ①写真を中心とした通信「虹の橋」を(隔月)発行するようになった。②「情報交換ノート」を新たに作ることによって、職員間の情報が共有化された。また、それを元に、ヒヤリハット事例を拾い出すようにしている。③介護計画の見直しを3ヵ月毎に行なうようにした。④外部研修に参加する仕組みを整備した。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:第三者4) 自己評価は全職員で行ない、管理者がユニットリーダーとの会議を経て、それらをまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 会議は、ホームのイベント行事と同日に開催し、利用者全員とご家族が参加している。会議でご家族の意向をお聴きする機会を設けることで、それをホーム運営に活かすことができてきた。(なお、姫路市の方針として、地域包括支援センター職員や行政職員の出席は願えないことになっている。)
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 毎月、利用者ご家族に手紙(個別写真も同封)を出し、日々の様子を報告している。通信「虹の橋」では、イベント時の様子や介護の豆知識なども掲載している。ご家族の訪問時には、ご家族が意見や要望を遠慮なく言えるよう、ホーム側でその雰囲気づくりを心掛けている。成果として、ご家族の要望をきっかけに、ホーム入口に“今日の出勤者写真”を掲げるようになった。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 地域自治会に加入し、地域の秋祭り(農業祭)に参加したり、地域住民がボランティアとして「絵画教室」や「踊り」に、ホームを訪れている。ホーム側からも、近隣の寺院に訪れたりしている。地域住民との交流は、まだそう多くないので、今後は、地域行事や子ども会行事に積極的に参加できるよう働きかけてゆくことにしている。

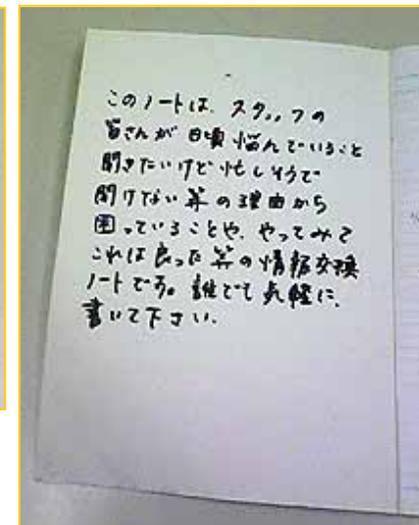
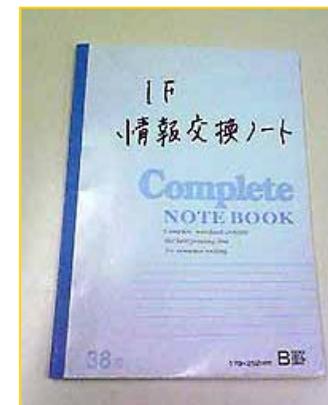


▲「今日の出勤者写真」を掲示  
(家族からの要望に応えた工夫)



▲ 居心地の良い環境づくり  
(職員室の前に、さりげなく椅子を配置)  
ここから職員の様子が見え、気分が安らぐ

▼ 情報共有と、職員の育成・職員のストレス解消の工夫



▲ 入居者と職員の協働 (献立の相談)



▲ 入居者と職員の協働 (菜園作業)



▲ 入居者と職員の協働 (洗濯物干し)





▲ホーム玄関（鉢植えなどで飾り付け…）



▲庭（一部を菜園に…）

入居者の方々が育てるヒヤシンス ▼



▲近隣の子供たちが遊ぶ公園（日常の散歩コースに利用）



リビング（入居者の作品を並べ… 壁の言葉は「CHIAKI ほおずき」のテーマ…） ▲

## 2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所テーマは「信頼関係の構築」。家族等の協力を得ながら、地域の特性も取り入れ、ホーム全体として地域住民との関りを深めていこうとしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員は、理念実現に向けての研修を行ない、定期的な会議や個別面談でも、これらについて話し合っている。家族懇親会や地域住民がボランティアや見学で来られた機会を利用して理念の共有を図っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ボランティアとして、地域住民が絵画教室や踊りにホームを訪れてもらったり、ホームの側からも、地域の秋祭り(農業祭)に参加し、また、不定期ではあるが、近隣の寺院に訪れている。	○	地域交流をより深めてもらいたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、全職員に対して、ミーティングや申し送り等の機会に第三者評価制度の意義を伝えている。職員全員で自己評価に取り組むことで、ケアの資質向上に繋げていくようにしている。第三者評価結果を施設のホームページにて公開するようにした。	○	家族等への情報開示がやや不足しているように感じる。例えば、評価結果のみに焦点を当てた案内文書を発行するなどしてはどうか。

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において、出席者からの意見や要望をお聴きし、運営に活かせるようにしている。	○	地域住民など、ホーム関係者以外の方々へ運営推進会議の意義を伝え、これに参加していただけるよう声かけをしてほしい。会議の開催頻度についても、増やしてもらいたい。
6	9	○市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のグループホーム連絡会(4か月に1回程度)に参加している。保健衛生関係について相談する機会が多い。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個々の利用者の日々の暮らしぶりは、毎月1回、家族へのお便りとして、担当職員による手紙に管理者が一言コメントを添えている。便りには、個々の利用者を撮った写真も、たくさん同封するようにしている。通信「虹の橋」を発行し、イベント時の様子を伝え、介護の豆知識なども掲載をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームは気軽に訪問しやすく(家族の訪問回数も比較的多い)、家族からホームへ意見・要望を伝えやすい雰囲気作りができています。ホーム内に意見箱も設置しています。ご家族からの「職員は名札をつけて欲しい」という要望に対して、ホーム入口に“今日の出勤者写真”を掲げるようにした。法人(運営主体)のホームページにも、意見・要望を受ける窓口が設けられている。	○	家族へは、家族会において苦情や相談の窓口を口頭で再度説明しているが、家族アンケートによると「知らない」と答える家族が少数いるので、書面を配布するなどの対応をお願いする。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員間ローテーションは、日常的にユニットをまたがって組んでおり、職員異動が発生した場合でも、通常は1か月間の引継ぎ期間を設けている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>全体社内研修、新人研修、主任研修、施設長研修、エリア別研修など、研修の受講機会は豊富に提供されている。地域消防主催の救命救急講習会には、各職員が順次参加し、行政主催の実務者研修にも積極的に参加している。外部主催の研修については“他者との交流も重要”ととらえ、案内があった場合には、職員の参加頻度に偏りがないように配慮しながら、その参加を優先したシフトが組んでいる。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>最近、市が立ち上げたグループホーム連絡会(4カ月に1回程度実施)にホームとして参加し、他事業所との交流を図っている。実務者研修には積極的に参加するとともに研修先としても受け入れを行ない、同業者との交流を実践している。</p>		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には本人や家族と話し合う機会を十分に設けている。多くの利用者場合は、併設するデイサービスの利用により職員と顔なじみの関係になり、ホームの環境にも慣れたうえで入居に至っている場合が多い。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>○利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>各職員は利用者それぞれの個性を把握し、日常生活全般において利用者の得意な部分を活かし、「できない」ことを支援しながら喜怒哀楽を共にしている。特に家庭菜園では元農家の利用者から学ぶことが多く、他の利用者とともに収穫の喜びを分かち合っている。</p>		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活歴はアセスメントシートにまとめられ、それらをもとに職員間でミーティングを行ない、意見交換し、本人の希望に沿った支援をしている。嗜好を取り入れた献立作り、散歩、仏花の購入等の要望にその都度対応している。		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	基本情報やアセスメントシートから利用者本人及び家族等の意見や要望を抽出し、利用者の特徴をとらえ、本人が好むことを中心とした本人ニーズに応える介護計画を作成している。各職員は、毎月開かれる全体会議およびユニットごとの会議で利用者情報を共有している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヵ月毎にケース会議を行ない、介護計画を見直しているが、体調変化やADL低下が見られる時は、その都度ケース会議を行ない、見直しをしている。「情報交換ノート」を新たに作成し、利用者情報に留まらず、普段の生活情報などを書き留めておくことにより、職員間での情報共有が上手くできている。	○	「情報交換ノート」にはタイムリーな情報が提供され、誰が見ても分かりやすいものになっており、これを是非継続してほしい。モニタリングについては、記録が少なく、これについては、質を高めてもらいたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスを併設しており、合同行事の開催や利用者間も普段から馴染みの関係も構築されている。地域住民がボランティアとして定期的にホームを訪れたり、介護保険外サービスとして訪問理美容があったり、消防による消火器訓練をするなど、柔軟な支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医が毎週1回往診にホームを訪れ、誰でも気軽に相談できる体制にあり、以前からのかかりつけ医の受診支援も行なっている。必要があれば協力医の紹介によって専門医の受診支援も行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、医師、関係者と話し合う機会を多く持ち、常に方向性を相談しながら利用者の変化に備えた準備を行ない、ホームでできる範囲の支援に取り組んでいる。市グループホーム連絡会研修では「看取りについて」を受講した。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録物の放置などをしないよう、各会議やミーティングなどで繰り返し意見を出し合い、周知徹底を図っている。個人情報、施錠できる書棚に保管するように徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、利用者が培ってきた経験を活かすことができるように声かけを行なっている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭菜園で食材を作り、収穫したものを食卓に並べ、献立づくりや食事づくりも職員と協働している。誕生日には本人の希望するメニューを提供している。利用者個々の嗜好品は、日常会話の中から情報を得て記録しており、「食後のコーヒー」などの支援も行なっている。外食は、3か月に1回程度行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には2日に1回のペースで入浴しているが、毎日入ったり夜間入浴もできるなど、一人ひとりの希望を優先し対応している。入浴を好まない利用者でも週に2回は入浴するよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の希望に沿って、日常生活上の役割(おしぼり巻き、洗濯干し、モップかけ…等々)がある。ホーム内ではゲームや生け花などを楽しんでおり、風船バレーは、ストレス解消としても、良い運動になっている。日帰り旅行や一日遠足など、年間行事が毎月組み入れられており、敬老会では各家族が集まり、懇親会が開かれている。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散歩が日課になっており、神社や寺、牛を飼っているお宅なども訪問している。車を使って近隣の大手スーパーに買い物に出掛けることも多い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が利用者各々の行動パターンを把握し、所在の確認を徹底しており、日中の施錠は全くしていない。玄関は人の出入りでチャイムが鳴るようにしており、必ず職員が対応している。利用者が外に出て行った場合は、職員が距離をおいて後ろを着いていつている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	各職員の役割が決められており、年に2回、日中・夜間体制での消防避難訓練を実施している。消防署主催の救命救急講習会へも積極的に参加している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー表示がある献立を取り入れるようにし、栄養バランスを考えた献立をたて、食事摂取量や水分摂取量はチェック表に毎回記録している。食後にはお茶をたくさん飲んでもらうように支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには季節の花や鉢植え・観葉植物が置かれ、人形や絵などの作品を飾っている。リビングにはたくさんのイベント時の写真や作品が掛けられ、温かな雰囲気作りを心掛けている。リビングの一画は一段高くなった畳スペースになっており、冬場には掘り炬燵が置かれる。玄関やリビング、台所横などには、いつでもくつろいだり、話ができるよう、椅子を配置している。職員室の近くの椅子は、入居者の不安解消に大いに役立っている（そこに座ると、職員の姿を感じることができ、気持ちが安らぐ）。ホーム南側の庭は広く、菜園、花壇、洗濯物干し場として利用している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンスなど、使い慣れた家具や調度品を持ちこんでいる。写真や思い出の品、昔に作った作品、仏壇、大切にしていた物品なども自由に持ち込んでおり、本人にとって安心して過ごせる環境作りができている。		

※  は、重点項目。